

## 水稲の生育状況と今後の管理対策（第3号）

令和3年6月22日  
新潟県農林水産部

### 〔6月21日現在の県内全域の生育状況〕

- ◎ コシヒカリの生育は、県全体では指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」ですが、地域差、ほ場差が大きい状況となっています。
- ◎ コシヒカリでは、分けつの発生が旺盛で、茎数が急激に増加しています。
- ◎ 新之助は、草丈、茎数、葉数の進み、葉色ともに指標値「並」の状況となっています。

### 〔気象予報と今後の生育見込み〕

- ◎ 北陸地方は平年より7日遅い、6月18日ごろに梅雨入りしたと見られます。
- ◎ 6月17日発表の1か月予報によると、平均気温、降水量、日照時間ともに、ほぼ平年並ですが、前線や湿った空気の影響を受け、平年と同様に曇りや雨の日が多く、梅雨空が続く見込みです。
- ◎ コシヒカリでは、今後の連続降雨や曇天による日射量の低下により、草丈と茎数がさらに増加して、前年同様、籾数過剰や著しい倒伏の発生が懸念されます。
- ◎ 降雨が続くと、いもち病に感染しやすくなるので、抵抗性の弱い新之助では十分な注意が必要です。

### 〔今後の管理対策のポイント〕

#### コシヒカリ

- ◎ 茎数が急激に増加しており、籾数過剰や倒伏を防止するため、溝切りの徹底により中干し<sup>\*1</sup>の効果を高め、過剰な生育を抑えてください。
- ◎ 停滞水の排水やフェーン等の異常高温時に速やかなかん水が行えるよう、溝の手直し、タテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつなぎを確認してください。
- ◎ 乾かし過ぎて大きなヒビが入ると根を傷めるので、田面の状態に注意し、大きなヒビにならないよう走り水かん水を行ってください。

#### 新之助

- ◎ 5月下旬に田植えをしたほ場でも茎数は急激に増加しており、速やかに中干しを開始してください。
- ◎ 中干しの効果を高め、根の健全化やほ場の地耐力の向上を図り、フェーン等の緊急時に速やかなかん水が行えるよう、溝切りを必ず実施してください。
- ◎ 全量基肥<sup>\*2</sup>肥料を施用したほ場では6月末頃に葉色がやや濃くなるので、病害虫発生予察情報に注意し、葉いもちの発生を確認した場合は、薬剤防除を徹底してください。

\*1 中干し（なかほし）：田の水を落として、一時的に田を乾かし、稲の生育量を適正に保つ作業のこと

\*2 全量基肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前又は田植え時に一括して施す施肥法

### 早生品種 (参考)

- ◎ 中干しの終了時期は、遅くとも出穂の1か月前をめどとします。
- ◎ 中干し終了後は、浅水の間断かん水\*3を実施し、徐々に飽水管理\*4に移行してください。
- ◎ 5月上旬までに田植えを終えたほ場では、6月中に幼穂形成期を迎えることが想定されます。穂肥\*5施用の時期と量を地域の農業普及指導センターやJA等からの技術情報で確認し、1回目の穂肥を遅れずに施用してください。
- ◎ 病害虫発生予察情報に注意し、葉いもちの発生を確認した場合は、速やかに防除を行ってください。
- ◎ 斑点米カメムシ類の発生が多い地域が見られます(新潟県病害虫発生予察速報第2号)。イネ科雑草が実をつけないよう、ほ場内外の除草を計画的に行い、カメムシによる斑点米の発生を防止してください。

\*3 間断かん水： たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法

\*4 飽水管理(ほうすいかんり)： 土壌を湿潤状態に保つこと

\*5 穂肥(ほごえ)： 穂が出る前に追肥すること

### 熱中症予防

- ◎ 平年並の気温でも、湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- ◎ 溝切りや除草、穂肥施用など、屋外での農作業では、あらかじめ飲料水や日陰を十分に確保しておくなどの熱中症予防対策を必ず行い、健康管理に十分注意するとともに、気温の高い時間帯での作業を避けたり、頻繁に休憩を取るなど、農作業の安全対策にも十分配慮してください。

◎ 今後の管理対策発信予定日

7月1日・9日・21日・27日・30日、8月20日、9月10日

## 〔補足資料〕

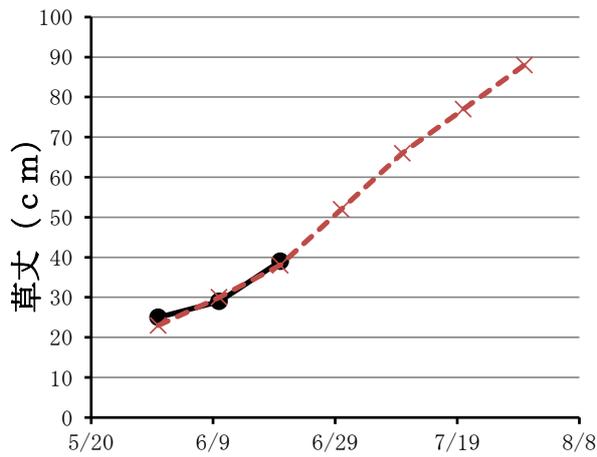
### 1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（6月21日現在）

#### コシヒカリ

○ 指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」の状況です。

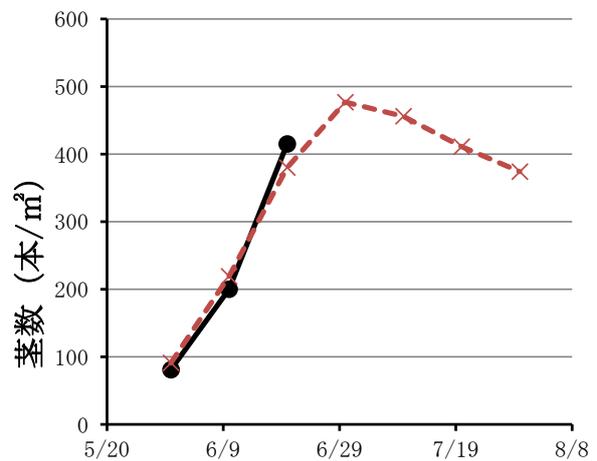
項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	39 cm	38 cm	並	103%
茎数	415 本/m <sup>2</sup>	380 本/m <sup>2</sup>	やや多い	109%
葉数	8.8 葉	8.5 葉	並	+0.3 葉
葉色 (SPAD 値)	39.4	38.9	並	+0.5

注) 県内全域の115生育調査ほデータの平均値（田植え5月10日、栽植密度16.9株/m<sup>2</sup>）



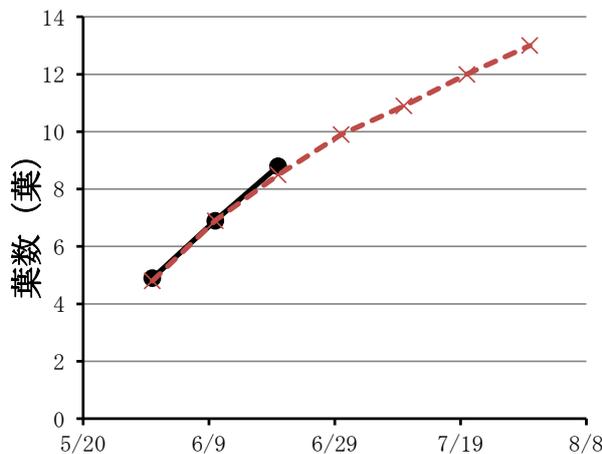
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移  
(県全体)



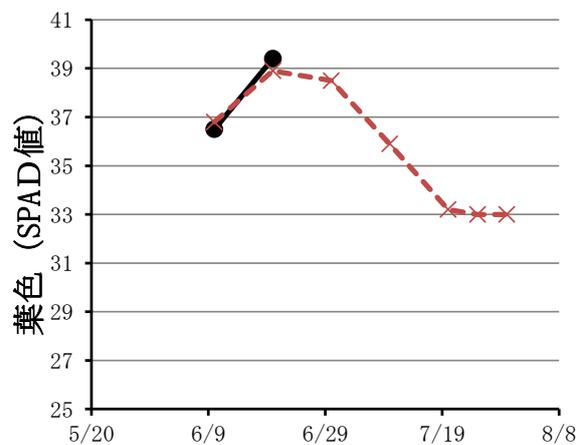
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移  
(県全体)



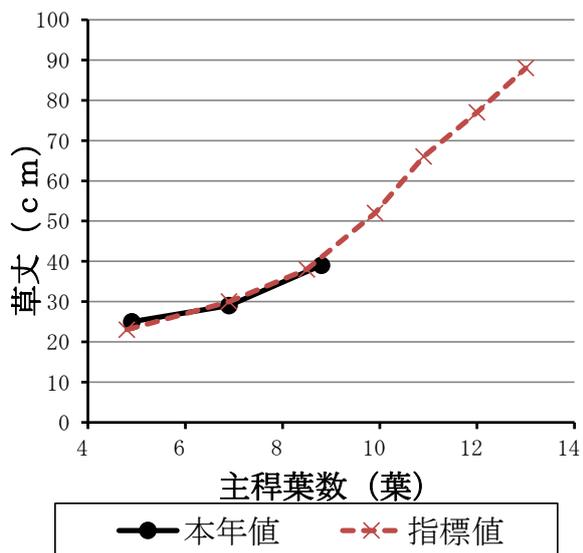
● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移  
(県全体)

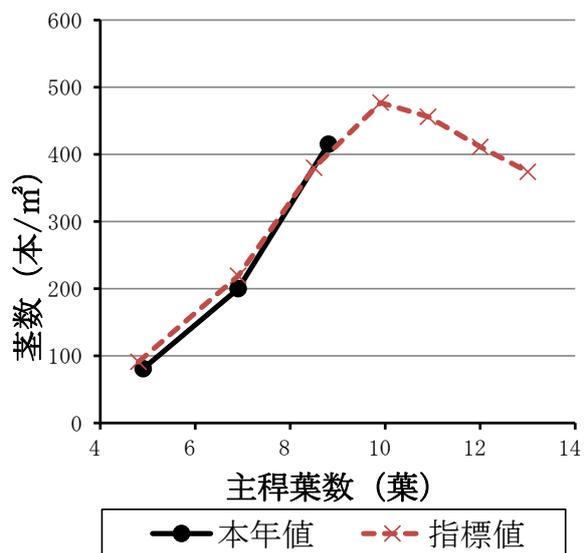


● 本年値    -x- 指標値

葉色の推移  
(県全体)



葉数と草丈  
(県全体)



葉数と茎数  
(県全体)



- ◎中干しの強さは、小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度とする。
- ◎ただし、高地力など、生育量が過剰になりやすいほ場では、強めに中干しを行い、茎数の増加を抑える。



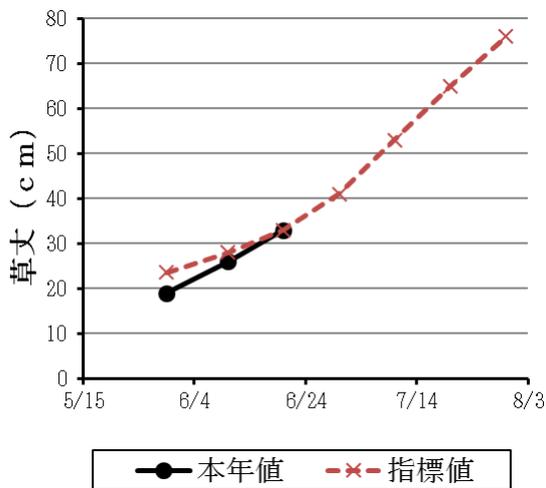
- ◎乾かしすぎて大ヒビが入ると、根の切断や発根が抑制される。
- ◎高温が続き、田面に大きなヒビが入ることが想定される場合には、走り水かん水を行う。

## 新之助

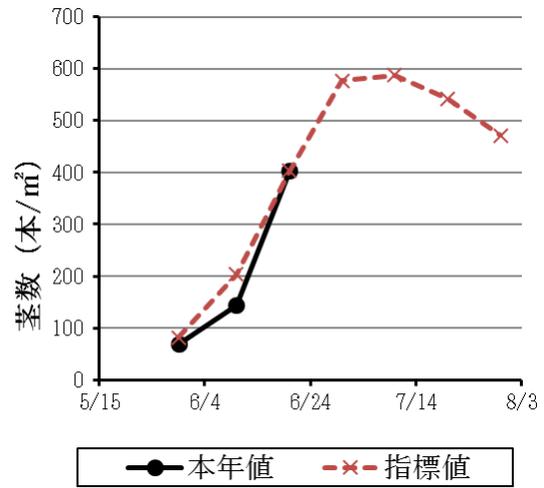
○ 草丈、茎数、葉数の進み、葉色ともに指標値「並」の状況です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	33 cm	33 cm	並	99%
茎数	403 本/m <sup>2</sup>	403 本/m <sup>2</sup>	並	100%
葉数	8.5 葉	8.7 葉	並	-0.2 葉
葉色 (SPAD 値)	39.1	38.9	並	+0.2

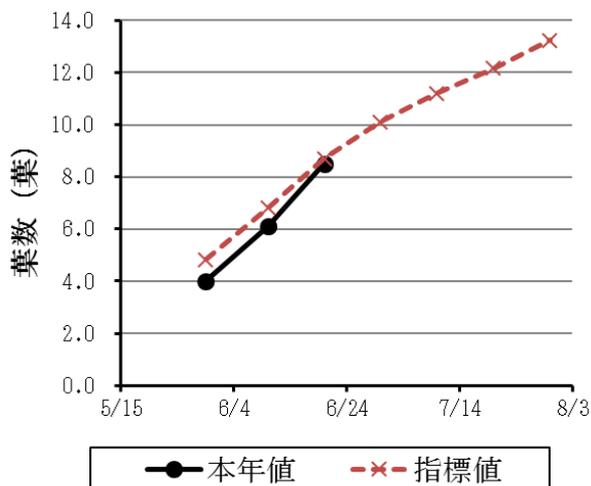
注) 県内全域の15生育調査ほデータの平均値(田植え5月18日、栽植密度16.0株/m<sup>2</sup>)



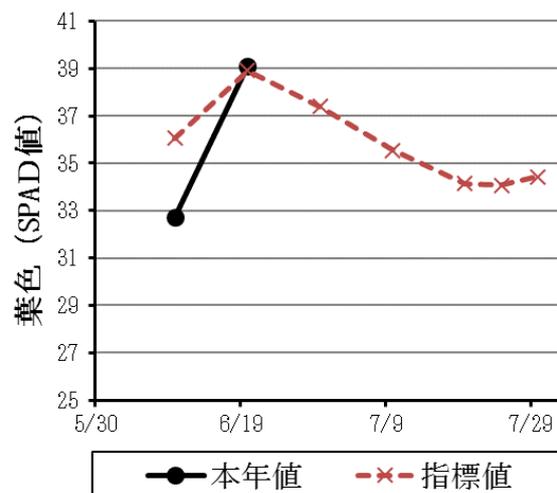
草丈の推移  
(県全体)



茎数の推移  
(県全体)



葉数の推移  
(県全体)



葉色の推移  
(県全体)

## こしいぶき (参考)

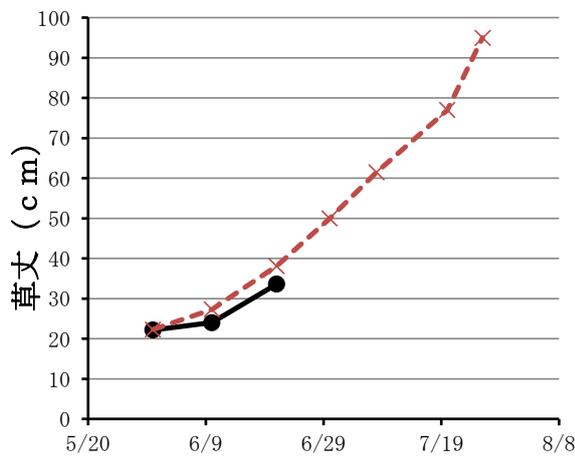
○ 指標値に比べ、草丈は「短い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「並」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	34 cm	38 cm	短い	88%
茎数	469 本/m <sup>2</sup>	557 本/m <sup>2</sup>	少	84%
葉数	9.1 葉	9.2 葉	並み	-0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	41.0	40.8	並み	+0.2

注1) 化学肥料栽培 田植え5月10日、栽植密度は20.7株/m<sup>2</sup>

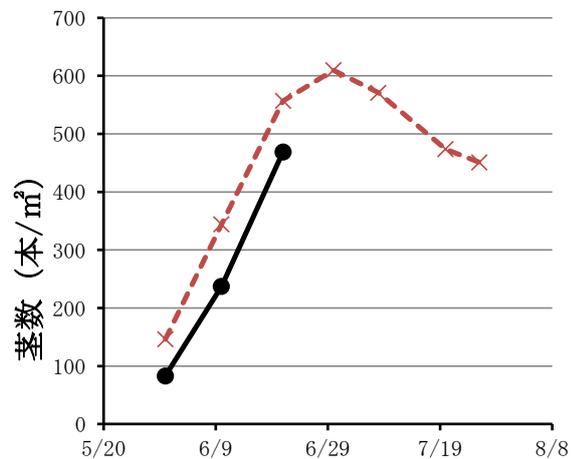
注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町(作物研究センター)の生育調査ほデータ



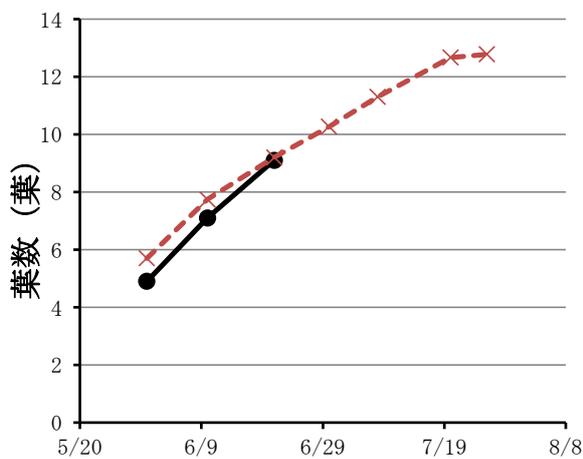
● 本年値    -x- 指標値

草丈の推移



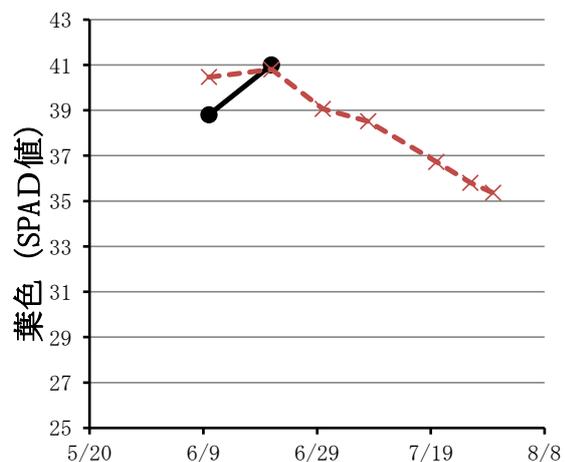
● 本年値    -x- 指標値

茎数の推移



● 本年値    -x- 指標値

葉数の推移

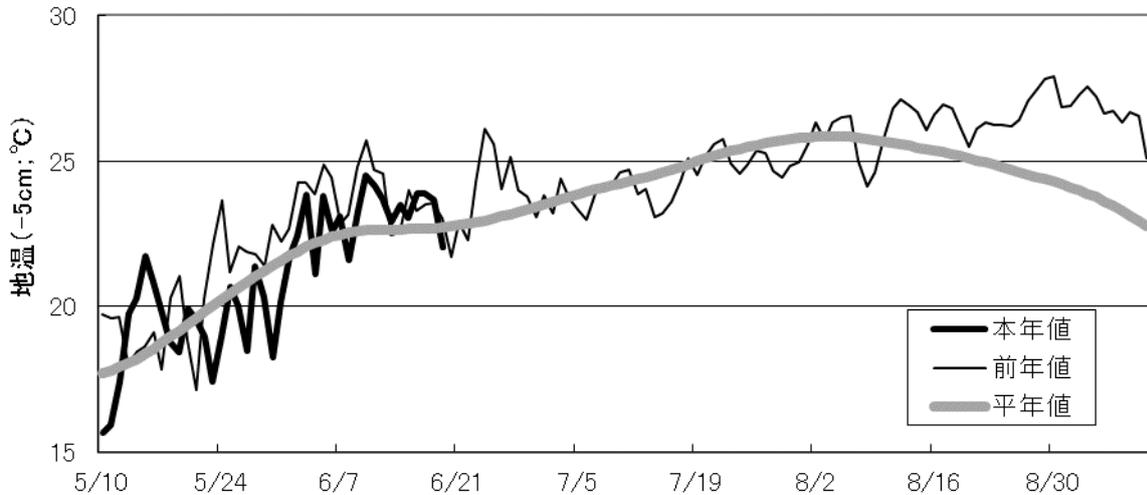


● 本年値    -x- 指標値

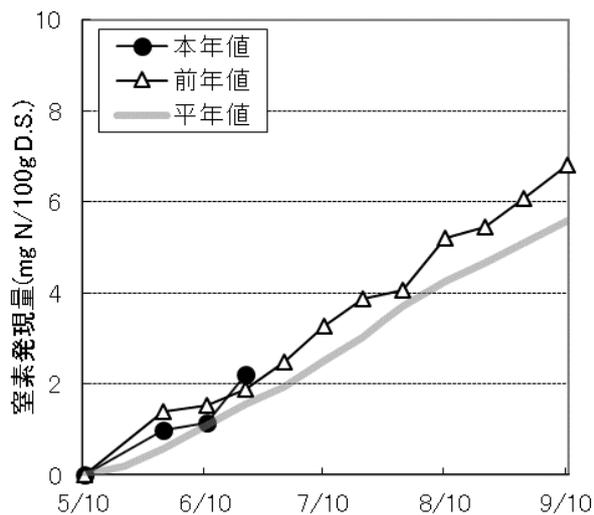
葉色の推移

## 2 ちりよく 地力窒素の発現状況

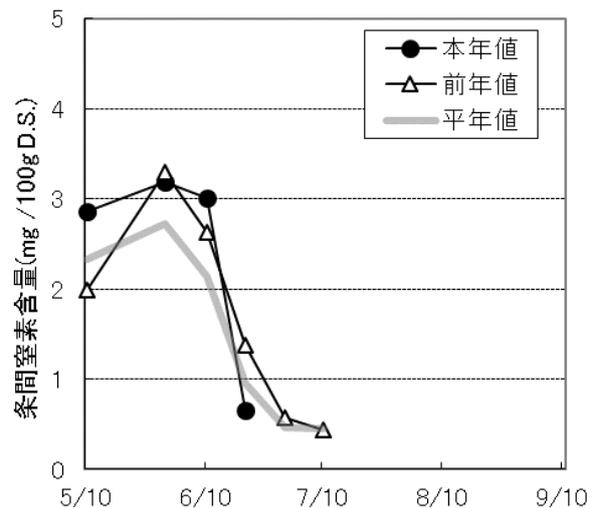
- 6/9～6/19の期間の日平均地温は平年差+0.9℃で高めでした。この期間の地力窒素の発現量は、平年より多くなりましたが、条間窒素は急激に減少しました。水稻の生育が旺盛であり、窒素を多く吸収したためと考えられます。



水田地温 (-5cm) の推移  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素の発現推移(6月19日)  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)  
初期値=0、移植日：5月10日、化学肥料栽培  
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含有率の推移(6月19日)  
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)  
移植日：5月10日、化学肥料栽培  
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a